心理的距離と自尊感情の関連

—新疆ウイグル自治区の中学生と高校生を対象として—

○福住紀明¹・山口正二²

(¹東京電機大学大学院先端科学技術研究科・²東京電機大学)

キーワード：解釈レベル理論, 自尊感情, ウイグル

Relationships between Psychological Distance and Self-Esteem

Noriaki FUKUZUMI¹, Shoji YAMAGUCHI²

(¹Graduate School of Advanced Technology and Science, Tokyo Denki Univ., ²Tokyo Denki Univ.)

Key Words: Construal Level Theory, Self-Esteem, Uyghur

目 的

アザティ・山口 (2007) は, 山口・吉澤・原野 (1989) の心理的距離概念を用いて, 中国・ウイグル人と日本人における教師と生徒の心理的距離の実態を比較・検討を行った。その結果, ウイグルにおいても, 山口ら (1989) の研究と同様に, 学校教育における教師と生徒の心理的距離の重要性が報告されている。

しかし, アザティ・山口 (2007) や山口ら (1989) による心理的距離に関する研究では, 心理的距離を親基準で評定するために, 親との心理的距離については十分な検討がなされていない。さらに, 学校での社会的適応の問題は, 生徒と教師だけの関係だけでなく, 友達関係や学業も生徒の社会適応に影響を与える重要な要因である。したがって, 教師と生徒の人間関係だけでなく, 友達関係や学業についても検討する必要がある。

そこで, 本研究では, 自己を基準として心理的距離を捉える解釈レベル理論 (Trope & Liberman, 2003, 2010) にもとづき, 親や学校領域の心理的距離と自尊感情の関連を検討する。なお, 伊藤・川崎・小玉 (2011) は, 自尊感情には本来感と優越感という下位様態があることを指摘していることから, 伊藤ら (2011) に従って, 本来感と優越感の2つに着目して検討する。

方 法

調査対象者 新疆ウイグル自治区の中学校4校の生徒377名 (男子151名, 女子226名), 高校2校の生徒474名 (男子156名, 女子318名) に調査を実施した。

調査時期 2013年11月

調査内容 (a) 心理的距離: 解釈レベル理論にもとづいて, 父親, 母親, 友達, 先生, 学習に対する心理的距離を5件法で測定した。(b) 本来感: 自分らしくある感覚としての自尊感情を測定する本来感尺度 (伊藤・小玉, 2005) を使用した。7項目, 5件法であった。(c) 優越感・有能感: 外的な評価に随伴する自尊感情を測定する自己愛人格目録短縮版 (小塩, 2001) の下位尺度である「優越感・有能感」を使用した。10項目, 5件法であった。

手続き 本研究の研究趣旨および研究方法や個人情報の取り扱い等を伝え, 質問紙調査を各学校の担当教師に依頼した。協力が得られた学校で調査を実施した。日本語と中国語の尺度の内容的妥当性を検証するために, バックトランスレーション法を行い, 内容的妥当性を確認した。

結 果

はじめに, 各対象の心理的距離, 本来感および優越感・有能感の相関係数を算出した (Table 1)。中学生においては, 各対象の心理的距離, 本来感および優越感・有能感との間に有意な負の相関が示された。高校生においては, 父親と母親を除いた心理的距離の各対象, 本来感および優越感・有能感と

の間に有意な負の相関が示された。

次に, 各対象の心理的距離, 本来感および優越感・有能感の関連を検討するために, 各対象の心理的距離を独立変数とし, 本来感と優越感・有能感を従属変数とした, ステップワイズ法による重回帰分析を学校段階別に行った (Table 2)。

中学生においては, 本来感に母親と学習の心理的距離が負の影響を及ぼしていた (母親・距離: $\beta=-.18, p<.01$; 学習・距離: $\beta=-.23, p<.01$)。また, 優越感・有能感に父親と学習の心理的距離が負の影響を及ぼしていた (父親・距離: $\beta=-.13, p<.05$; 学習・距離: $\beta=-.21, p<.01$)。

高校生においては, 本来感に母親, 友達および学習の心理的距離が負の影響を及ぼしていた (母親・距離: $\beta=-.12, p<.01$; 友達・距離: $\beta=-.16, p<.01$; 学習・距離: $\beta=-.25, p<.01$)。また, 優越感・有能感に友達と学習の心理的距離が負の影響を及ぼしていた (友達・距離: $\beta=-.11, p<.05$; 学習・距離: $\beta=-.16, p<.01$)。

考 察

中学生と高校生では心理的距離が本来感と優越感・有能感に与える影響が異なることが示された。高校生では友達に対する心理的距離が本来感と優越感・有能感に影響を示した。高校生の自尊感情においては, 親との心理的距離よりも友達との心理的距離が自尊感情に結び付きやすいと考えられる。今後は, 中学生と高校生の心理的距離の発達の変化をとらえるために, 縦断的に検討していく必要があるだろう。

Table 1 相関分析結果

	中学生		高校生	
	本来感	優越感・有能感	本来感	優越感・有能感
父親・距離	-.20**	-.19**	-.23**	-.08 <i>n.s.</i>
母親・距離	-.24**	-.17**	-.23**	-.09 <i>n.s.</i>
先生・距離	-.24**	-.20**	-.20**	-.14**
友達・距離	-.19**	-.15**	-.28**	-.16**
学習・距離	-.28**	-.25**	-.33**	-.19**

** $p<.01$.

Table 2 重回帰分析結果

	中学生			高校生	
	本来感	優越感・有能感		本来感	優越感・有能感
父親・距離		-.13*			
母親・距離	-.18**		-.12**		
先生・距離					
友達・距離			-.16**	-.11*	
学習・距離	-.23**	-.21**	-.25**	-.16**	
R^2	.11**	.08**	.16**	.05**	

** $p<.01$, * $p<.05$.